

—みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜—

横浜みどりアップ計画の評価・提案 (骨子案)

横浜みどりアップ計画市民推進会議平成 27 年度報告書

横浜みどりアップ計画市民推進会議

平成 28 年 月

目次

1 はじめに	1
2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議	
(1) 横浜みどりアップ計画	2
(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議	4
3 市民推進会議平成 27 年度の活動実績	
(1) 平成 27 年度の活動の概要	4
(2) 活動の詳細内容	
市民推進会議(全体会議)	6
施策別専門部会	6
調査部会(現地調査)	7
広報・見える化部会	10
4 施策ごとの評価、提案	12
(1) 取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む	
施策1 樹林地の確実な保全の推進	14
施策2 良好な森を育成する取組の推進	15
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	16
(2) 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる	
施策1 農に親しむ取組の推進	17
施策2 地産地消の推進	18
(3) 取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる	
施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	19
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上がりを醸成する取組の推進	20
(4) 効果的な広報の展開	
市民の理解を広げる広報の展開	21
5 市民推進会議委員名簿	23
6 市民推進会議委員からのコメント	26
7 市民推進会議広報誌	
「みどりアップ Q」「子ども版広報誌」(平成 27 年度発行分)	32

1 はじめに

.....

.....

横浜市みどりアップ計画市民推進会議 進士座長からのメッセージ

.....

.....

.....

2 横浜みどりアップ計画と市民推進会議

(1) 横浜みどりアップ計画

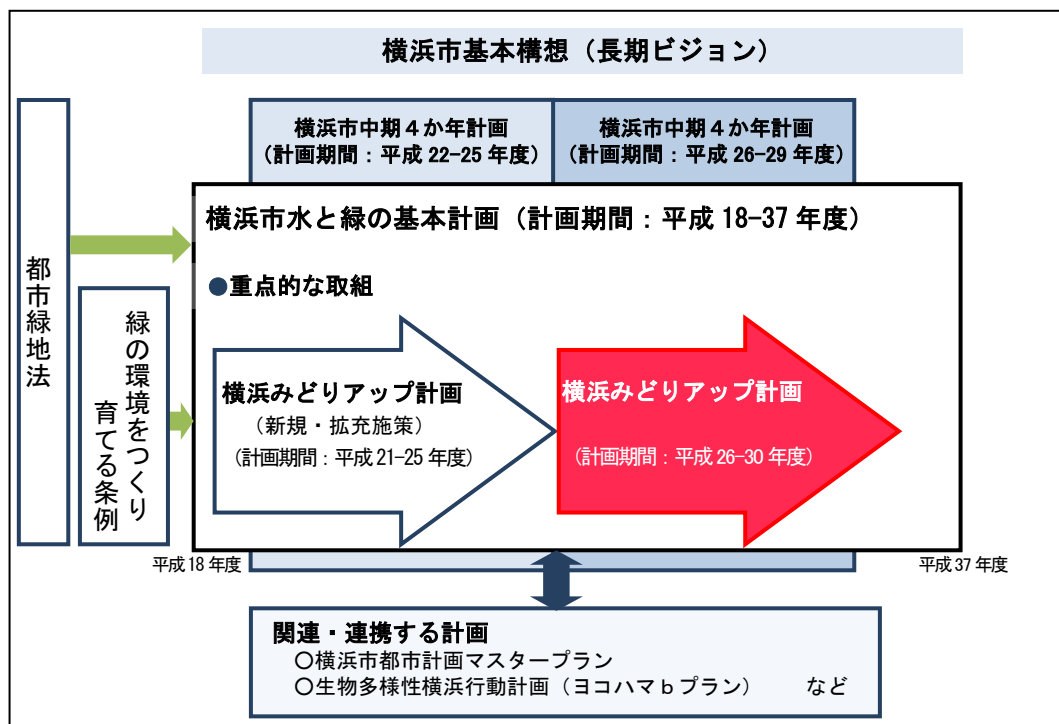
①位置付け

横浜市は、大都市でありながら、市民生活の身近な場所にまとまった規模の樹林地や農地などがあり、また、起伏に富んだ地形から、変化に富んだ水や緑の環境を有しています。

この緑の環境を生かし、次世代へ引き継いでいくため、市は平成37年度を目標年次とした「横浜市水と緑の基本計画」を平成18年に策定し、計画に基づき長期的な視点から「横浜らしい水・緑環境の実現」に向けた取組を展開しています。

「横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）」は、これまでの取組を強化・充実するための5か年の事業計画として策定されました。また、「横浜みどり税」は、この推進のための重要な財源として導入され、平成21年4月から計画が推進されました。

さらに、緑の保全や創造は長い時間をかけて継続的に取り組むことが重要であることから、横浜みどりアップ計画（新規・拡充施策）の取組の成果や課題、市民意見募集結果などを踏まえ、「横浜みどりアップ計画」（計画期間：平成26-30年度）が策定されました。



【図】横浜みどりアップ計画（計画期間：平成26-30年度）の位置付け

②横浜みどりアップ計画(計画期間:平成26-30年度)の構成

平成26年度より、2期目の「横浜みどりアップ計画」に基づき、「みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜」を理念とし、5か年の目標を設定しました。目標の実現に向け、横浜みどりアップ計画では、「市民とともに次世代につなぐ森を育む」「市民が身近に農を感じる場をつくる」「市民が実感できる緑をつくる」を三つの柱とした取組と効果的な広報を推進しています。

計画の理念：みんなで育む みどり豊かな美しい街 横浜

5か年の目標

- 1 緑の減少に歯止めをかけ、総量の維持を目指します**
緑地保全制度の指定による樹林地の担保量が増加、水田の保全面積が増加、市街地で緑を創出する取組が進展 など
- 2 地域特性に応じた緑の保全・創出・維持管理の充実により緑の質を高めます**
森の保全管理など生物多様性に配慮した取組の進展、緑や花の創出により街の魅力・賑わいが向上 など
- 3 市民と緑とのかかわりを増やし、緑とともにある豊かな暮らしを実現します**
森に関わるイベントや農作物の収穫体験、地域の緑化活動など、市民や事業者が緑に関わる機会が増加 など



取組の柱

取組の柱1

市民とともに次世代につなぐ**森**を育む

取組の柱2

市民が身近に**農**を感じる場をつくる

取組の柱3

市民が実感できる**緑**をつくる



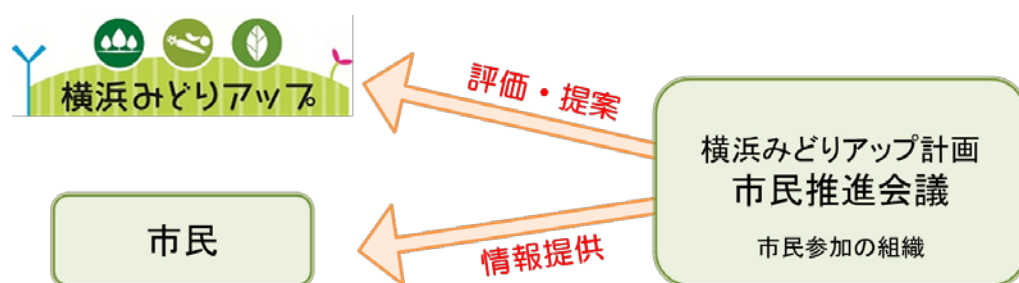
効果的な
広報の
展開

(2) 横浜みどりアップ計画市民推進会議

横浜みどりアップ計画市民推進会議は、市民参加の組織により、みどりアップ計画の評価及び意見・提案、市民の皆さんへの情報提供等をおこなうことを目的として、平成21年に設置され、平成24年からは条例設置の附属機関に位置付けられました。これまでに全体会議や各種部会の開催に加え、参加市民を公募したオープンフォーラムや現地調査を実施し、市民意見の聴取にも努め、計画の評価、提案をおこなってきました。

みどりアップ計画を推進するうえで、市民推進会議のこのような取組は大きな役割を果たしており、2期目のみどりアップ計画についても、継続して活動することとなりました。

平成26年度からは新たな委員も含め、学識経験者や関係団体、町内会・自治会代表、公募市民の計16名で活動しています。（〇頁に委員名簿を掲載）



※附属機関：法律又は条例に基づき設置し、行政執行のために必要な審査、調査等をおこなう機関。会議において審議、協議した結果、意見を取りまとめたり市に提言等をおこなう。

横浜市附属機関設置条例第2条第2項：附属機関※の担任する事務は、別表担任事務の欄に掲げるとおりとする。

別表（抜粋）

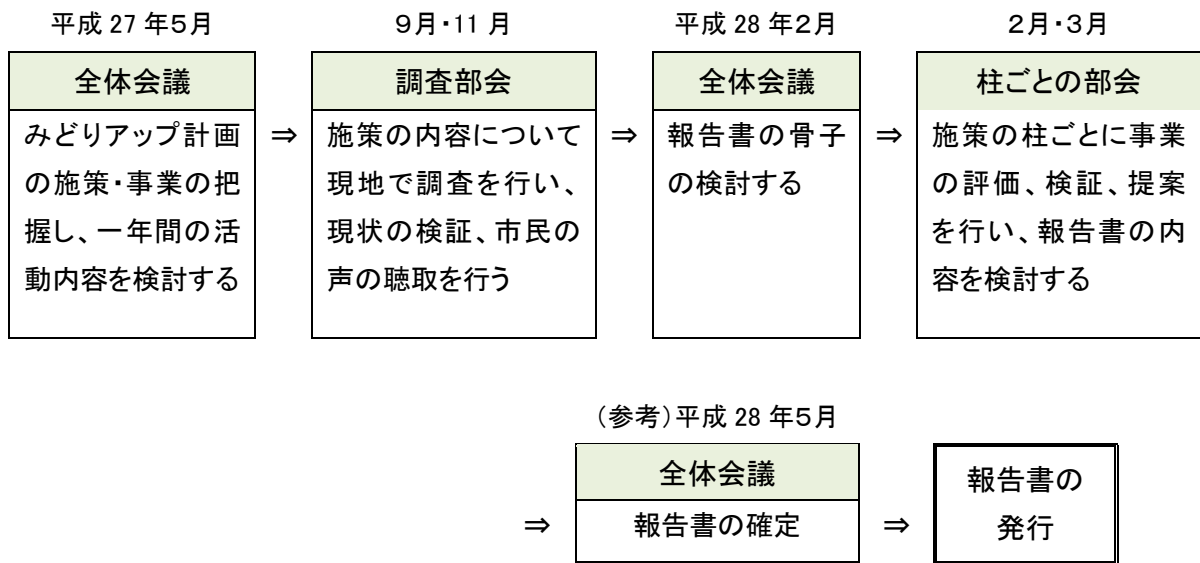
執行機関	附属機関	担任事務	委員の定数
（中 略）			
市長	横浜みどりアップ計画市民推進会議	横浜市域の樹林地及び農地の保全並びに緑化の推進を図ることを目的とする横浜みどりアップ計画に係る施策及び事業についての情報提供、評価等に関する事務	20人以内
（以下省略）			

3 市民推進会議平成 27 年度の活動実績

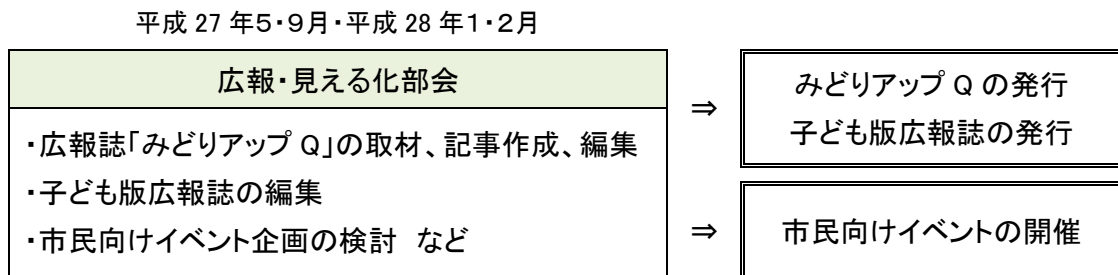
(1)平成 27 年度の活動の概要

市民推進会議の活動は、みどりアップに対する評価・提案などをまとめた報告書の発行までの流れ、及び、市民への情報提供までの流れと、大きく2つに分けることができます。

①評価・提案をまとめた報告書の発行までの流れ



②市民への情報提供の流れ



(2) 活動の詳細内容

① 市民推進会議(全体会議)

市民推進会議の全体会議において、部会の構成や調査の実施など年間の活動内容を確認し、横浜みどりアップ計画の内容、進捗状況について説明を受けて、質疑応答、意見交換をおこないました。

第 22 回市民推進会議(平成 27 年5月1日)

- ・市民推進会議平成 26 年度報告書(案)について
- ・横浜みどりアップ計画平成 27 年度事業内容について
- ・市民推進会議平成 27 年度の取組について



市民推進会議 全体会議の様子

② 施策別専門部会

取組の柱ごとに施策別専門部会を設置し、事業分野ごとに、詳細に説明を受け、意見交換、提案検討をおこないました。

第8回「森を育む」施策を検討する部会(平成 28 年3月8日)

- ・横浜みどりアップ計画「森を育む」施策の評価・提案について

第8回「農を感じる」施策を検討する部会(平成 28 年2月 25 日)

- ・横浜みどりアップ計画「農を感じる」施策の評価・提案について

第8回「緑をつくる」施策を検討する部会(平成 28 年3月4日)

- ・横浜みどりアップ計画「緑をつくる」施策の評価・提案について



「森を育む」施策を検討する部会



「農を感じる」施策を検討する部会



「緑をつくる」施策を検討する部会

③ 調査部会(現地調査)

<第14回調査部会>

[日時] 平成27年9月7日(月)午後0時45分～午後4時30分

[場所] 横浜自然観察の森、自然観察センター、上郷・森の家

[参加委員] 9名

[内容]

(ア)「市民が森に関わるきっかけづくり」取組が実施されている樹林地を調査
(栄区上郷町)

- ・自然観察センターへ移動しながら、取組についての説明(みどりアップ推進課)
- ・レンジャーの方からウェルカムセンターの施設や取組について説明
- ・横浜自然観察の森を歩きながら、小学校向け宿泊体験学習の視察



ウェルカムセンターの視察



小学生向け宿泊体験学習の視察

(イ) 意見交換会(栄区上郷・森の家)

- ・当日の調査内容について、感想や質疑応答など

<委員の感想・意見交換>

- 横浜自然観察の森というモデルケースを元に、市民生活の身近なところで、市民が自然を体験・経験できる仕組みづくりができるとうい。
- 一般の学校などが、ほかのウェルカムセンターや施設などと、より積極的に共同でプログラム開発ができるように、また、学校の教員も自前でできるような方向性になるとよい。
- 企業も、環境に対する課題に取り組む機運は高まっているので、CSRのすそ野をもう少し広げた方がよい。5つのウェルカムセンターが連携し、それらを具体的に発現させるような工夫なり場面なりがあるとよい。
- 企業にとっては社会貢献としてだけでなく、技術の活用や、社員のメンタルヘルスケア対策などといったメリットもある。今後、緑の維持管理の負担を考えていく上で、それぞれの企業が持つ技術や社員の能力をより生かすことのできる仕組みが求められる。
- 自然体験に欠ける世代の教員が増えているため、教員に対する自然学習の指導能力の養成が求められる。



意見交換会(上郷・森の家)

<第15回調査部会「みどリアップを見に行こうツアー」>

[日時] 平成27年11月14日(土)午前9時20分～午後0時40分

[場所] 東寺尾ふれあいの樹林、東寺尾一丁目ふれあい公園(鶴見区東寺尾)、
地域緑のまちづくり北寺尾地区(鶴見区北寺尾)、みなとみらい21新港地区8街区、
ナビオス横浜(中区新港)

[参加委員] 7名

[内容] 一般市民15名

(ア)「市民とともに次世代につなぐ森を育む」取組が実施されている樹林地を調査
(鶴見区東寺尾)

・東寺尾ふれあいの樹林を歩きながら、みどリアップ推進課による取組についての
説明、質疑応答・意見交換

(イ)「市民が身近に農を感じる場をつくる」取組が実施されている農園付公園を調査
(鶴見区東寺尾)

・東寺尾一丁目ふれあい公園を見ながら、政策課による取組についての説明
・公園指定管理者((株)日産クリエイティブサーブス)・ボランティアリーダーの方
から公園で行う管理や活動について説明、質疑応答



東寺尾ふれあいの樹林で
説明を聞く参加者



ボランティアリーダー
の方と指定管理者の方



東寺尾一丁目ふれあい公園

(ウ)「市民が実感できる緑をつくる」取組が実施されている地域緑のまちづくりを調査
(鶴見区北寺尾)

・緑化の整備を行った国道1号線沿いを歩きながら、みどリアップ推進課による取組
についての説明
・北寺尾地区の地域緑のまちづくりを行う「鶴見『みどりのルート1』をつくる会」会長
による緑化の説明、質疑応答



緑化前の様子



緑化後の様子



「鶴見『みどりのルート1』
をつくる会」会長

(エ) 「市民が実感できる緑をつくる」取組が実施されている港湾緑地を調査
(中区新港地区)

・港湾緑地の視察、みどりアップ推進課による取組についての説明

(オ) 意見交換会(ナビオス横浜)

・当日の調査内容について、一般参加者からの感想や質疑応答・意見交換



新港中央地区

<参加者の主な意見>

- みどりアップが思っていたよりも進んでいた。住宅街にも緑をもっと増やせたらよい。
- 市民農園など市民が農業に関わっていくことが増えて、もっと面積が広がっていくとよい。
- 農園付公園は、農地の担い手の問題が多い中、都市の中での使い方をうまくやっており、良い考えだと思った。
- 北寺尾地区はいつも車から見ている場所だったが、歩いてみるとチェーン店のレストランなどにも緑が沢山あることが分かった。
- 北寺尾地区の活動がとても良かった。実際に自分が楽しめるような場所であると緑を守ろうと思うのではないか。
- 地域緑のまちづくり事業を行っている地区で活動をしているが、他の地区の活動の状況が知りたく参加した。自分が活動している地区でも、北寺尾地区と同様に、手入れをどう続けていくのか、また、お手伝いいただける人をどう広げていくのかという問題がある。
- 息子が参加するということで、全く興味なく応募した。みどり税のことも今回初めて知ったが、これをきっかけに街の緑に少し注目してみようと思った。

④ 広報・見える化部会

平成 25 年度までの「広報部会」、「見える化部会」を合わせ、みどりアップ計画やみどり税についての情報提供のあり方の検討や広報誌の編集をおこなっています。

広報誌は平成 26 年度から「みどりアップQ」として「濱RYOKU」からリニューアルし、平成 27 年度は第4～6号を発行しました。駅や主要な公共施設のPRボックスや、各区役所、土木事務所、公園事務所の公共施設で配布しています。さらに、みどりアップQの別冊としてみどりアップ計画を広く子どもたちにも知ってもらうためのリーフレットを発行しました。

また、子どもが参加するフォーラムイベントを企画し、開催しました。

第 24 回広報・見える化部会(平成 27 年5月 20 日)

・みどりアップQ(第4号)について

第 25 回広報・見える化部会(平成 27 年9月4日)

・みどりアップQ(第5号)について

第 26 回広報・見える化部会(平成 28 年1月 22 日)

・みどりアップQ(第6号)について

第 27 回広報・見える化部会(平成 28 年2月 16 日)

.

<みどりアップ子どもフォーラム(仮称)>

[日時] 平成 28 年3月 12 日(土)午前 10 時～午後2時

[場所]

[参加委員]

[内容]

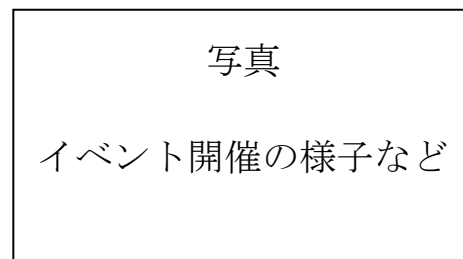
.....

<参加者の主な意見>

.....

<委員の感想・意見交換>

.....



みどりアップQ第4号

《発行日》

平成 27 年 7 月

《発行部数》

21,000 部

《目次》

- ・地域緑のまちづくり
- ・ウェルカムセンターにいこう
- ・イベント情報



みどりアップQ第5号

《発行日》

平成 27 年 11 月

《発行部数》

21,000 部

《目次》

フェリス女学院大学を囲む森での

「蝶がつなぐ緑のネットワーク調査」



みどりアップQ第6号

《発行日》

平成 28 年 3 月

《発行部数》

21,000 部

《目次》

.....

表紙

みどりアップQ 別冊（子ども版）

《発行日》

平成 28 年 3 月

《発行部数》

21,000 部

《目次》

.....

表紙

※詳細については、〇～〇頁参照。「みどりアップQ」を添付しています。

4 施策ごとの評価、提案

市民推進会議では、みどりアップ計画の「市民とともに次世代につなぐ森を育む(「森を育む」)」、「市民が身近に農を感じる場をつくる(「農を感じる」)」、「市民が実感できる緑をつくる(「緑をつくる」)」の施策と、みどりアップ計画を市民の皆さんに周知するための「広報・PR」について、現地調査で市民や活動団体などからいただいた意見等を踏まえて、評価・検証をおこないました。

なお、みどりアップ計画で進めている事業・取組には、横浜みどり税の導入時に定めた用途に沿って横浜みどり税を充当している事業・取組と、横浜みどり税を充当せずに進めている事業・取組がありますが、市民推進会議では市民の皆さんが負担している横浜みどり税を充当している事業・取組を中心に評価・検証をおこないました。

◆計画の体系◆

●：横浜みどり税を充当している事業・取組

取組の柱1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

施策1 樹林地の確実な保全の推進	事業① 緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	●
施策2 良好な森を育成する取組の推進	事業② 生物多様性・安全性に配慮した森づくり	●
	事業③ 森を育む人材の育成	●
施策3 森と市民とをつなげる取組の推進	事業④ 市民が森に関わるきっかけづくり	●

取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

施策1 農に親しむ取組の推進	事業① 良好な農景観の保全	●
	事業② 農とふれあう場づくり	●
施策2 地産地消の推進	事業③ 身近に感じる地産地消の推進	
	事業④ 市民や企業と連携した地産地消の展開	

取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進	事業① 民有地での緑の創出	●
	事業② 公共施設・公有地での緑の創出	●
施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げを醸成する取組の推進	事業③ 市民協働による緑のまちづくり	●
	事業④ 子どもを育む空間での緑の創出	●
	事業⑤ 緑や花による魅力・賑わいの創出	●

効果的な広報の展開

事業① 市民の理解を広げる広報の展開	
--------------------	--

◆みどリアップ計画全体への意見及び評価の概要◆

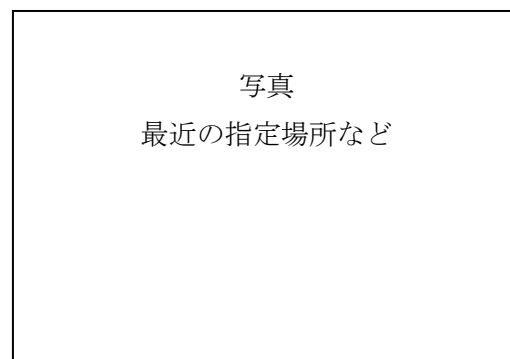
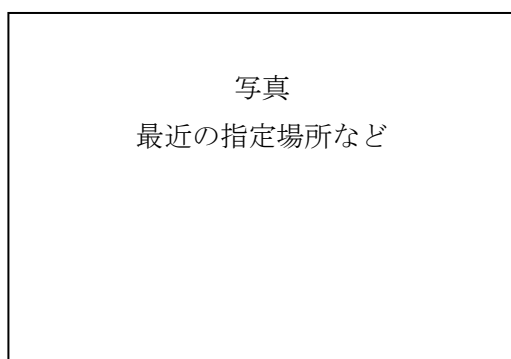
.....
.....
.....

(1) 取組の柱 1 市民とともに次世代につなぐ森を育む

森(樹林地)の多様な役割に配慮しながら、緑のネットワークの核となるまとまりのある森を重点的に保全するとともに、保全した森を市民・事業者とともに育み、次世代に継承します。

施策1 樹林地の確実な保全の推進

事業	事業の概要	進捗状況(11月末時点) 【27年度目標/5か年の目標】
緑地保全制度による指定の拡大・市による買取り	<p>市内に残る樹林地の多くは民有地であり、まとまりのある樹林地を保全して次世代に引き継ぐためには、土地を所有する方が、できるだけ持ち続けられるよう支援することが必要です。そこで、緑地保全制度の指定により土地所有者への優遇措置を講じることで、樹林地を保全します。</p> <p>また、土地所有者の不測の事態等による、樹林地の買入れ申し出に対応します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 新規指定面積：26.3ha 【100ha/500ha】 • 買取面積：7.5ha 【19.7ha/108ha】



◆施策1についての評価・提案

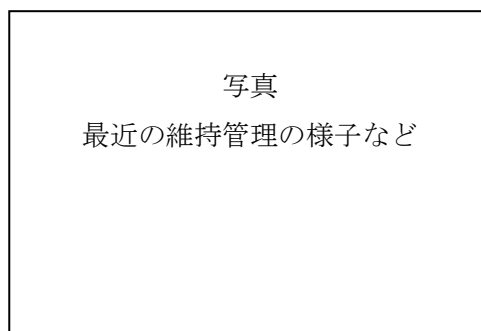
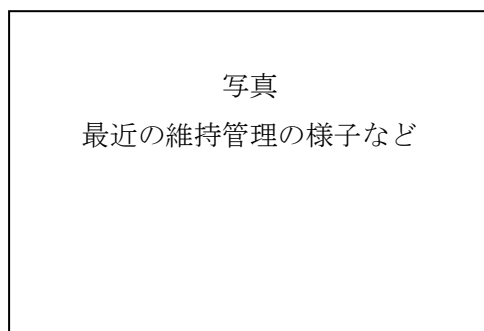
.....

.....

.....

施策2 良好な森を育成する取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
生物多様性・安全性に配慮した森づくり	樹林地の維持管理（森づくり）を行う際の技術指針である森づくりガイドライン等を活用し、生物多様性の保全、利用者の安全や快適性の確保、良好な景観形成など、森に期待される多様な役割に配慮した森づくりを推進します。また、緑地保全制度の指定を受けた土地を所有する方の維持管理負担を軽減するための支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> • 森づくりガイドライン等を活用した維持管理の推進： 市民の森等 114 か所、まとまった樹林地のある都市公園 8 か所 【推進/推進】 • 保安全管理計画の策定の取組： 市民の森等 3 か所、まとまった樹林地のある都市公園 3 か所で策定中 【3 か所、3 か所/15 か所、10 か所】 • 樹林地保全制度に指定している民有樹林地の維持管理の助成(交付受付)：104 件 【130 件/650 件】 • 法面の整備 設計中 2 か所、施工中 1 か所 【2 か所/10 か所】 • 森づくり活動団体へのチップターの貸出し：1 回 【推進/推進】
森を育む人材の育成	市民や事業者と市の協働により森を育む取組を進めるため、森づくり活動に取り組む市民や団体を対象に、活動のための知識や技術に関する研修を実施し、森を育む「人」を育てます。また、森づくり活動を行う団体を対象に、活動に必要な支援を行います。	<ul style="list-style-type: none"> • 研修を 10 回実施、ニュースレターを 2 回発行 【推進/推進】 • 森づくり活動団体への支援： 樹林地延べ 20 団体、公園延べ 9 団体 【樹林地延べ 10 団体、公園延べ 10 団体 / 樹林地延べ 50 団体、公園延べ 50 団体】



◆施策2についての評価・提案

.....

.....

.....

施策3 森と市民とをつなげる取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
市民が森に関わるきっかけづくり	森に関わる市民の裾野を広げるため、森に関するイベントや講座の開催などにより、市民が森に関わるきっかけを提供します。また、平成25年度までに設置したウェルカムセンター（5館）を活用し、多くの市民が、横浜の森について理解を深めることができるような情報発信を行います。	<ul style="list-style-type: none"> イベント等の実施：100回 【36回/180回】 ガイドマップ：2地域で作成 【推進/新規に指定された市民の森等を対象に作成】

写真
最近のイベントの様子など

写真
最近のイベントの様子など



市民の森・ふれあいの樹林ガイドマップ（旭区「今宿市民の森・鶴ヶ峰ふれあいの樹林」）

◆施策3についての評価・提案

-
-
-

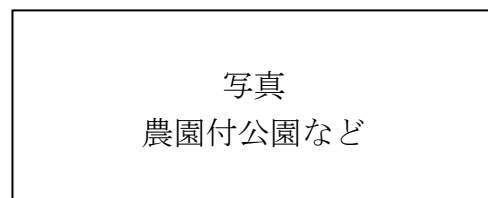
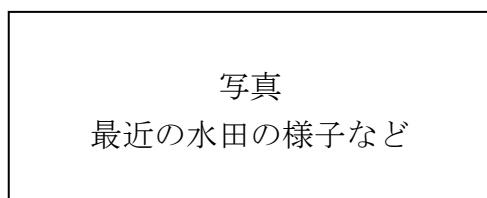
「森を育む」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500字程度)

(2) 取組の柱2 市民が身近に農を感じる場をつくる

景観や生物多様性の保全など農地が持つ環境面での役割に着目した取組、地産地消や農体験の場の創出など、市民と農の関わりを深める取組を展開します。

施策1 農に親しむ取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
良好な農景観の保全	<p>集団的な農地から構成される広がりのある景観や、樹林地と田や畑が一体となった谷戸景観など、多くの市民に親しまれてきた農景観を次世代に継承するため、横浜に残る貴重な水田景観を保全する取組や、意欲ある農家・NPO法人などにより農地を保全する取組を支援します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 水田保全承認予定面積：120.7ha（うち新規承認 1.7ha） 【121ha/125ha】 • 共同利用設備の整備：1件 【5件/25件】 • 長期貸付開始農地：7.1ha（累計 75.6ha） 【4.2ha(累計 68.5ha)/累計 80ha】
農とふれあう場づくり	<p>食と農への関心や、農とのふれあいを求める市民の声の高まりに応えるため、収穫体験から本格的な農作業まで、様々な市民ニーズに合わせた農園の開設や整備を進めるとともに、市民と農との交流拠点である横浜ふるさと村や恵みの里を中心に、市民が農とふれあう機会を提供します。また、農家と地域住民が協働で地域の農環境を保全する取組など、市民による主体的な活動を支援します。これらの取組の情報発信を充実させることにより、市民の利用や参加につなげます。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 収穫体験農園の開設支援：0.99ha 【2.5ha/12.5ha】 • 市民農園の開設支援：1.8ha 【1.2ha/6.0ha】 • 農園付公園の整備：1.4ha（2か所） 【1.4ha（2か所）/7.3ha】 • ふるさと村・恵みの里の農体験教室等：82回 【100回/500回】 • あぐりツアー実施：2回 【4回/20回】



◆施策1についての評価・提案

.....

.....

.....

施策2 地産地消の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
身近に感じる地産地消の推進	地域でとれた農畜産物などを販売する直売所の整備等の支援や、市内で生産される苗木や花苗を配布するなど、地産地消の取組を拡大します。さらに、地産地消に関わる情報の発信など、市民が地産地消を身近に感じるための取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・直売所の整備・施設拡充の支援：4件 【10件/52件】 ・青空市運営支援：5件 【5件/25件】
市民や企業と連携した地産地消の展開	市民の「食」と、農地や農畜産物といった「農」をつなぐ「はまふうどコンシェルジュ」などの地産地消に関わる人材の育成やネットワークの強化を図るとともに、農と市民・企業等が連携する取組を推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・はまふうどコンシェルジュの活動支援：18件 【20件/100件】 ・企業等との連携：5件 【5件/50件】

写真
最近の直売所の様子など

写真
企業等との連携の実績がわかる写真など

◆施策2についての評価・提案

.....

.....

.....

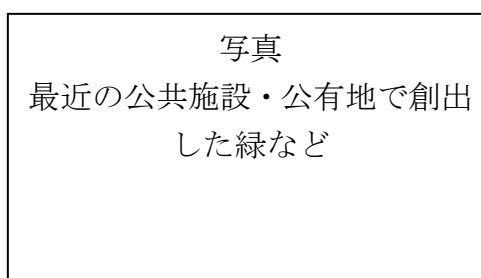
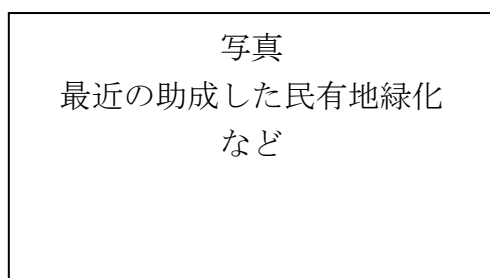
「農を感じる」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500字程度)

(3) 取組の柱3 市民が実感できる緑をつくる

街の魅力を高め賑わいづくりにつながる緑や地域の緑、街路樹などの緑の創出に、緑のネットワーク形成も念頭において取り組めます。また、地域で緑を創出・継承する市民や事業者の取組を支援します。

施策1 市民が実感できる緑を創出する取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
民有地での 緑の創出	緑あふれる魅力的な街をつくるためには、市民や事業者の取組が不可欠です。多くの市民が目にする場所や効果的な場所での緑の創出、生物多様性の向上に寄与する取組や地域で親しまれている名木古木の保存など、緑の創出・保全に積極的に取り組む市民・事業者を支援します。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑化の助成：4件（手続き中を含む） 【13件/65件】 ・名木古木の保存：推進 【推進/推進】 ・人生記念樹苗木の配布：7,865本 【8,000本/40,000本】
公共施設・ 公有地での 緑の創出	多くの市民が利用する地域の公共施設から率先し、市民が実感でき、生物多様性の向上や地域の良好な景観形成につながる緑を創出します。また、市民が目にする機会の多い街路樹を良好に育成するための取組を拡大します。	<ul style="list-style-type: none"> ・緑の創出：10か所 【16か所/58か所】 ・創出した緑の維持管理：推進 【推進/推進】 ・シンボリックな緑の創出：事業推進1か所、事業実施に向けた調整中2か所 【1か所/5か所】 ・いきいきとした街路樹づくり： 18区で推進 【18区で推進/18区で推進】



◆施策1についての評価・提案

.....

.....

.....

施策2 緑を楽しむ市民の盛り上げりを醸成する取組の推進

事業	事業の概要	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標/5か年の目標】
市民協働による緑のまちづくり	地域が主体となり、住宅地や商店街、オフィス街、工場地帯など様々な街で、地域にふさわしい緑を創出する計画をつくり、計画を実現していくための取組を、市民との協働で進めます。	<ul style="list-style-type: none"> 地域緑化推進事業：22地区 （新規：協定締結手続中5地区） 【28地区（新規 6地区、継続 22地区）/46地区】
子どもを育む空間での緑の創出	次世代を担う子どもたちが緑と親しみ、感性豊かに成長できるよう、子どもが多く時間を過ごす保育園、幼稚園、小中学校を対象に、施設ごとのニーズに合わせた多様な緑の創出・育成を進めます。緑の創出にあたっては、子どもたちと生き物とのふれあいが生まれるような空間づくりに取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 緑の創出：12か所 （整備中含む） 【20か所/100か所】 芝生等の維持管理：推進 【推進/推進】
緑や花による魅力・賑わいの創出	多くの市民が時間を過ごし、国内外から多くの観光客が訪れるエリアである都心臨海部において、来訪者の回遊性向上や生物多様性確保の観点から、エリア内での緑のネットワーク形成に寄与することも念頭に、公共施設を中心に緑や花による空間演出や質の高い維持管理を集中的に展開し、街の魅力形成・賑わいづくりにつなげます。	<ul style="list-style-type: none"> 都心臨海部での緑のネットワーク形成：推進 【推進/推進】 緑花の維持管理：推進 【推進/推進】

写真
最近の地域緑化推進事業地区など

写真
最近の学校の緑化など

写真
最近の都心臨海部の緑花事例など

◆施策2についての評価・提案

.....

.....

.....

「緑をつくる」施策を検討する部会 部会長コメント
(300～500字程度)

(4) 効果的な広報の展開

市民の皆様のご理解とご協力を得ながら取組を推進するため、取組の内容や実績について、様々な媒体・手法を用いて効果的にお知らせし、理解を深めていただくとともに、緑に関わる活動に参加するきっかけとなる機会を提供します。

市民の理解を広げる広報の展開

取組内容	進捗状況（11月末時点） 【27年度目標】
<p>取組の内容や実績について、様々な媒体・手法を用いて効果的に市民へ広報を行い、理解を深めるとともに、緑に関わる活動に参加するきっかけとなる機会を提供（広報よこはままでの特集や、自治会町内会などを通じたPR や実績報告など）</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 広報よこはま9月号特集ページの記事作成 【各戸に届く広報よこはまの特集ページの利用】 • 実績概要の作成・配付（6月） 【計画、実績概要の作成・配付】 • ブルーラインはまりん号、パートラッピングバスなど市営交通を中心とした交通広告を実施（～11月） 【市の工事等の現場に統一的な看板等を設置】 • 市の工場等の現場に統一的な看板等を設置（実施中） 【市民認知度の調査】 • 公共施設などで横断幕によるPR（実施中） 【公共施設などで横断幕等によるPR】 • PR用動画に使用する映像を撮影中 【PR用動画の制作・配付】 • 環境行動フェスタで着ぐるみをお披露目、広報用品等作成中 【マスコットキャラクターの作成・活用】

写真
ラッピングバス

写真
企業等との連携の実績がわかる写真など

写真
横断幕など

イラスト
横浜みどりアップ葉っぱー

◆取組への評価・提案

.....
.....
.....

広報・見える化部会 部会長コメント
(300～500 字程度)

5 市民推進会議委員名簿

横浜みどりアップ計画市民推進会議 名簿

(50音順・敬称略)

	氏 名	区 分	備 考
	相川 健志	公募市民	
	相原 信行	関係団体	横浜市町内会連合会 顧問
	東 みちよ	公募市民	
	池田 信彦	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
	池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
	大竹 斎子	公募市民	
	加茂 千津子	公募市民	
	清水 靖枝	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
座 長	進士 五十八	学識経験者	東京農業大学 名誉教授
	関水 金作	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
副座長	蔦谷 栄一	学識経験者	株式会社農林中金総合研究所 客員研究員
	長瀬 里佳	公募市民	
	野路 幸子	関係団体	元横浜市中心農業委員会委員
	望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授
	矢沢 定則	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事
	若林 史郎	関係団体	横浜商工会議所 理事・企画広報部長

平成28年2月5日

<施策別専門部会 名簿>

「森を育む」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
東 みちよ	公募市民	
加茂 千津子	公募市民	
清水 靖枝	関係団体	長屋門公園管理運営委員会 事務局長
関水 金作	関係団体	追分・矢指市民の森愛護会 会長
部会長 望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

「農を感じる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
相川 健志	公募市民	
大竹 斎子	公募市民	
部会長 蔦谷 栄一	学識経験者	株式会社農林中金総合研究所 客員研究員
野路 幸子	関係団体	元横浜市中央農業委員会委員
矢沢 定則	関係団体	横浜農業協同組合 常務理事

「緑をつくる」施策を検討する部会 名簿

(50音順・敬称略)

氏名	区分	備考
相原 信行	関係団体	横浜市町内会連合会 顧問
池田 信彦	関係団体	よこはま緑の推進団体連絡協議会 会長
部会長 池邊 このみ	学識経験者	千葉大学大学院 園芸学研究科 教授
長瀬 里佳	公募市民	
若林 史郎	関係団体	横浜商工会議所 理事・企画広報部長

広報・見える化部会 名簿

(50音順・敬称略)

部会長

氏 名	区 分	備 考
東 みちよ	公募市民	
相川 健志	公募市民	
大竹 斎子	公募市民	
加茂 千津子	公募市民	
長瀬 里佳	公募市民	
望月 正光	学識経験者	関東学院大学 経済学部 教授

6 市民推進会議委員からのコメント

市民推進会議の委員を務めてきた中で感じたことや、生活の中で日ごろ各委員が感じたことについて、委員一人ひとりからのコメントを紹介します。

〇〇委員コメント（〇〇部会、〇〇部会 所属）
（300 字程度）

〇〇委員コメント（〇〇部会 所属）
（300 字程度）

〇〇委員コメント（〇〇部会 所属）
（300 字程度）

7 市民推進会議広報誌「みどりアップQ」(平成27年度発行分)

「みどりアップQ」

第4号 平成27年7月発行

- ・地域緑のまちづくり
- ・ウェルカムセンターにいこう
- ・イベント情報

第5号 平成27年11月発行

フェリス女学院大学を囲む森での
「蝶がつなぐ緑のネットワーク調査」

第6号 平成28年2月発行予定

.....
.....

別冊平成28年3月発行

「子ども版 広報誌(仮名)」

みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

まちの緑は、私たちの暮らしに
さまざまな役割を果たしてくれ
ます。憩いの場、自然を知る学
びの場、そして人と人のつな
がりを育むコミュニティの場
でもあります。横浜には、こ
んな身近な緑を育て、楽し
んでいる人たちがいます。
私たち市民が自ら、考え、行
動していく「地域緑のまちづ
くり」事業。今号では、いま
市内に広がる緑のまちづく
りについてご紹介します。

Q まちの緑を みんなで育て楽しむには？

INDEX

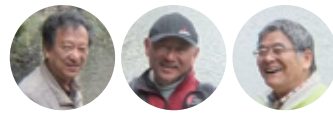
- 地域緑のまちづくり
- ウェルカムセンターにいこう
- イベント情報

団地の仲間と緑でまちづくり。

まちのシンボル 池、緑、人がつながる。

緑区竹山団地では、みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり」が26年度から進められています。「かつてみんなの憩いの場だった竹山池とその周辺を、いきいきよみがえらせた」という住民の熱意から、水辺の緑の環境整備が始まりました。仲間に声をかけあって、自分たちの手で緑のまちづくりを始めた「竹山池周辺活性化推進委員会」の皆さんに、みどりアップ計画市民推進会議の委員がお話を伺いました。

(取材 長瀬里佳 委員 編集 東みちよ 委員)



お話を伺った吉川勝さん(左)、鈴木英二郎さん(中央)、町田史郎さん(右)。20年近く、まちをよくするために活動しています。

団地の真ん中に、池?

竹山団地を歩いていると、中央に団地としては珍しい、人工の「竹山池」が現れます。雑木林と隣り合う景観が楽しめる竹山池。商店街のアーケードが、池に面して遊歩道のようにもなっているのも印象的です。「昔は池のそばの雑木林の中に小川があって、遊んでいたという話もあるよ」と町田さん。



商店街のアーケード



約7,000㎡ある竹山池は、40年ほど前に神奈川県住宅供給公社の団地開発とともに作られました。

団地を、池を、なんとかしたい

そんな竹山池は、年数が経ち、濁りや悪臭を放つようになり、酸素ポンプや井戸水のくみ上げで改善しましたが、いつしか住民は離れていきました。そして、それと重なるように住民の高齢化、子育て世代の転居で、今では3人に1人が65才以上に。かつてにぎわっていた商店街も閑散としています。「団地をなんとかしたい」と模索する中、みどりアップ計画の「地域緑のまちづくり」が住民活動を後押しするきっかけとなりました。

Q 地域緑のまちづくりとは?

A 地域が主体となり、その場所にふさわしい緑の計画をつくり、地域ぐるみで緑化を進めるものです。地域の団体が計画を市に提案し、選考を受けます。計画の提案の段階で、専門家によるアドバイスが受けられます。選考を通過し、市と協定を結んだ団体には、緑化の整備費や維持管理費が助成されます。現在市内22団体が活動しています。

Q まちの緑は、なぜ大切?

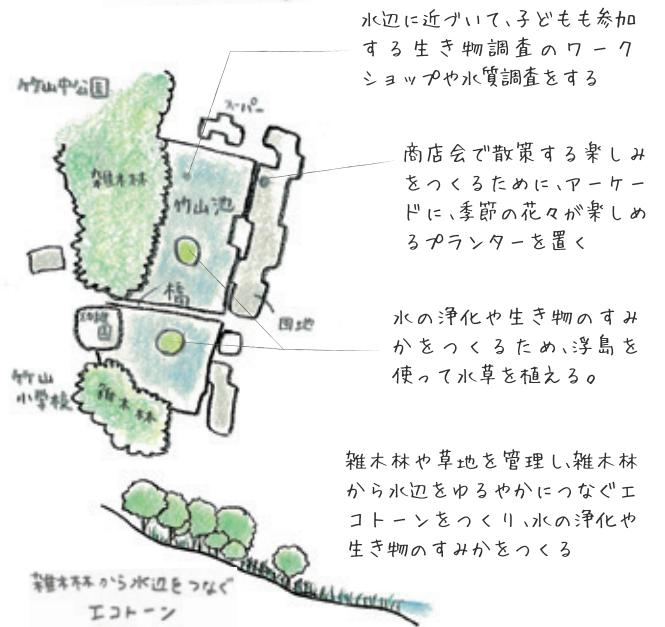
A 人に潤いや安らぎをもたらすほか、良好な景観形成や賑わいをつくることで、まちの魅力を高めます。また、生き物の生息空間や、ヒートアイランド現象を緩和させるなどの大切な役割もあります。

専門家が伴走する計画づくり

「地域緑のまちづくり」は、地域の人が緑化の計画を自分たちの手でつくり、計画づくりで心強い助っ人になったのが、市から派遣された緑化や環境の専門家でした。住民と一緒に団地の環境を調べて、竹山池と周辺をよみがえらせる緑化のアイデアを形にしていきました。たとえば、危ないからと見向きもされなかった雑木林や池。専門家と住民のワークショップで、雑木林を散策したという住民の記憶がよみがえり、計画の中に雑木林の整備を盛り込むことに繋がりました。

竹山地区の計画

地域の課題と解決する
地域緑のまちづくり



そうやってできた計画では、人々が緑や池に触れるきっかけを緑化でつくり、まちの賑わいを取り戻すことを目指しています。ひとことに「緑化」と言っても、場所ごとに、求められるものは違います。団地のことを誰よりも知っている住民と、専門家が意見を交わして計画をつくっていくことは、まちをただ飾るのではなく、緑を活かして、人が一緒に生きていくまちづくりだと感じました。



竹山地で生き物観察

池に近づいて、見えたこと

活動のひとつに、子どもも参加した「生き物観察のワークショップ」があります。カワセミやスジエビが観察されましたが、外来種も多くいました。「池にこんな生き物がいたのか」と、驚く住民もたくさんいました。外来種や生態系のバランスを考えるきっかけになったようです。



ワークショップの様子



スジエビ

竹山団地のこれから

若い世代に来てほしい、関わる人を増やしたい、団地の外からも見に来てほしい……。まちの緑に関心を持つことが、多世代交流や団地の外から活気を呼び込むきっかけになったらいいな、という願いが計画には込められています。団地の建設当初からの歴史を振り返りつつ、現状に目を向けて未来へと繋ぐ緑の取組に、共感しました。

「地域緑のまちづくり」の助成期間は3年間。みどり税をきっかけにした、3年経ったあとも続く景観・生物多様性の再生への試み。これからは楽しみです。

ここにみどり税

地域緑のまちづくりの費用
(整備費・維持管理費・活動費)

地域緑のまちづくりの問合せ

環境創造局みどりアップ推進課

Tel: 671-3447 Fax: 224-6627

地域緑のまちづくり



次回募集は来年度を予定していますが、ご案内はメールマガジンやホームページ、区役所広報相談係で配布のチラシでお知らせします。

まちを緑で、もっとよく！

竹山団地の他に、26年度から「地域緑のまちづくり」に取り組む5団体をご紹介します。

洋光台一丁目町内会みどりアップ委員会(磯子区)

町内会館と民有地を緑化し、住民の憩いの場とするほか、地域の緑の維持管理活動への支援や、バス通りの街路樹まですを使った緑化活動などを通して、住民同士のコミュニケーションを醸成していきます。

南中あじさい咲かせ隊(南区)

通勤通学、散歩などで人通りが多い南中学校周辺に、南中学校で育てたアジサイなどを植えることで、地域の緑化を進めます。生徒と地域の人たちが一緒に緑を増やし、愛着のある活動になるよう、広報誌の発行や講習会などを行います。

やもと農塾(青葉区)

高齢化が進む一方、ボランティアの理解も深い地区。プラントーつきベンチで沿道を緑で彩ることや、家庭の生ごみや街路樹の落葉を利用した土づくり、当地由来の禅寺丸柿500本の植樹、散歩道の策定などを通して、住民交流や健康づくりを目指します。



オリジナルの
プランターつき
ベンチを作ったよ



いいね〜

金沢文庫すずらん通り商店会、 みどりアップ事業部(金沢区)

人通りの多い商店街で、店主同士や住民が、緑花を通してふれあえる、居心地のいい空間を目指します。また、雨水貯水槽を設け、水やりや商店街での打ち水、防火防災に役立てます。

花と緑の委員会(磯子区)

通勤通学者が行き交う通り沿いのマンションの敷地を、地域の庭として、魅力的な緑化をしていきます。周辺のピオトープと連携した生物の生息域としての役割も視野に、みどりの環境づくりが地域に広がっていくことを目指します。

イベントINFORMATION [みどりのイベント情報]

※料金の記載がない場合は無料

野草を観る会

寺家ふるさと村を散策しながら野草観察

日時：第3日曜日(8月・12月、28年1月・2月を除く)
午前9時30分～正午

対象：小学生以上先着20人

場所：寺家ふるさと村
(青葉区寺家町414)

申込・問合せ：前日までに電話か直接
寺家ふるさと村「四季の家」へ
(Tel:962-7414)

クツワムシー斉調査! ガイダンス

クツワムシの市民参加型調査の説明会

日時：8月22日(土)午後2時～4時

対象：先着20人

場所：にいほる里山交流センター
(緑区新治町887)

申込：電話かファックスかEメールで
新治里山公園・にいほる里山
交流センターへ
(Tel:931-4947 Fax:937-0898
E-mail info@niiharu.jp)

浜なし持寄品評会

生産者が自慢の浜なしを持ち寄る

日時：9月4日(金)
PR販売:午前10時～完売まで
浜なしの展示:午前11時～午後0時30分
出品物販売:午後0時30分～完売まで
(出品物の即売整理券配布は11時30分から)

場所：横浜中央地下街マリナード広場
(JR関内駅徒歩2分)

問合せ：環境創造局農業振興課
Tel:711-0636 Fax:721-6356

さつまいも掘り

日時：団体:9月26日(土)～10月18日(日)
個人:10月17日(土)・18日(日)
午前9時30分～11時(10月17日・18日
のみ11時30分まで)

料金：入園200円(3才～小学生100円)
販売5株700円

場所：舞岡ふるさと村(戸塚区)

申込・問合せ：電話(先着順、団体:9月11日～、
個人:10月2日～)で舞岡ふるさと村虹の家へ
(Tel:826-0700 Fax:826-0749)

農と緑のふれあい祭り

野菜収穫体験や自然素材の工作教室など

日時：11月3日(火・祝)午前10時～午後2時
(こども植物園は3時まで、荒天中止)

場所：児童遊園地・こども植物園(JR保土ヶ谷
駅、JR戸塚駅、JR東戸塚駅又は京急井
土ヶ谷駅からバス)

問合せ：環境活動支援センター
Tel:711-0635 Fax:721-6356

よこはま食と農の祭典2015

横浜の農が大集合!(クイズ・展示・直売等)

日時：11月14日(土)正午～午後5時

場所：クイーンズサークル・クイーンズパーク
(クイーンズスクエア横浜1階)
(MM線みなとみらい駅徒歩3分)

問合せ：環境創造局農業振興課
Tel:671-2639 Fax:664-4425

森とわたしをつなぐ場所 ウェルカムセンターによう

第2回 環境活動支援センター交流スペース

環境活動支援センター内にある交流スペースは、市内の森に関心を持つきっかけづくりの場になる情報拠点。館内では、横浜の森林や樹木のパネル、周辺緑地の花や生き物情報、昆虫の標本等を展示し市内の森の散策情報を紹介。また、小学生以上を対象とした観察会や、クラフト教室等を開催しています。

開館時間：午前9時～午後5時

休館日：年中無休(年末年始を除く)

問合せ：Tel:713-6350 Fax:721-6356

JR保土ヶ谷駅から

京浜急行井土ヶ谷駅から



森に親しむ行事



交流スペース

神奈川中央交通バス東戸塚駅行(横17系統)か、戸塚駅東口行(戸38系統)か、芹が谷行(77系統)で「児童遊園地入口」下車徒歩8分
横浜市営バス79系統平和台行「児童遊園地前」下車徒歩8分

イベント情報

「トンゴ教室」

児童遊園地内の生き物観察や触れ合い。

日時：7/26(日)午前10時～正午

当日午前10時までに交流スペースへ

※イベントの問合せは、土・日・祝日の
午前9時～午後5時のみ電話で受付

夏休み「子ども昆虫相談室」

昆虫採集や見分け方、昆虫相談。

日時：7/26(日)、8/1(土)・2(日)・23(日)・29(土)・
30(日)午後1時～4時

当日直接交流スペースへ

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

<http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/>



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議

みどりアップQとは?

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなに?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第4号

(市民推進会議広報誌 第24号)平成27年7月発行
編集:横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行:横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局) 〒231-0017 横浜市中区港町1-1
Tel:045-637-4214 Fax:045-641-3490
E-mail:ks-midoriplan@city.yokohama.jp



みどりアップQ

緑 × まち × 未来を考えよう

緑のキャンパス、森の楽校へ！

がっ
こう

横浜市内には、自然豊かな大学のキャンパスが点在しています。キャンパスの自然も、私たち市民にとってはかけがえのない緑。横浜みどりアップ計画の事業のひとつ「よこはま森の楽校」では、そんな緑のキャンパスで、まちで、学生たちと一緒に学びながら、さまざまな発見に出会えます。今号では、学生の目を通した、緑と地域の交流をレポートします。





蝶がつなぐ緑のネットワーク調査・・・

横浜みどりアップ計画の事業のひとつ、「よこはま森の楽校」として、平成23年度から、フェリス女学院大学で毎年夏に1回開催されています。

子供たちに伝えることで、 気付くこと、学ぶこと。

大学のキャンパスを中心に、自然体験学習を楽しもう！そんなユニークな試みが、市内大学の学生が中心になって市民向けに開催する「よこはま森の楽校」です。フェリス女学院大学で開かれた「蝶がつなぐ緑のネットワーク調査」を取材、レポートします。

取材・編集 東みちよ 委員
イラスト 今井翔太くん(小4)



蝶とまちの緑の関係を探る

泉区緑園にあるフェリス女学院大学緑園キャンパス。ここには構内に2ヘクタールほどの森があり、周辺の森とともに、住宅地の貴重な緑となっています。キャンパスではビオトープや屋上緑化などが取り入れられ、緑あふれる環境づくりにも積極的です。「サークル活動では、長靴に麦わら帽子で、農作業も楽しんでいるんですよ」と元気に話してくれるのは、同校のエコキャンパス研究会の学生たち。構内で畑を耕したり、企業と協働でエコ商品の開発をしたり、幅広い活動をしています。

そんなエコキャンパス研究会の学生を中心に、大学では親子で参加できる自然体験学習「蝶がつなぐ緑のネットワーク調査」を開催しています。

「一部の蝶は、“^{ちようどう}蝶道”として、ある決まった通り道を飛んで行きます。ですから捕まえた蝶を追いかけることで、その生態を知ることができます。また、蝶の幼虫は、それぞれ決まった葉や草しか食べないので、そこにある植物の種類で蝶の生息域が変わってきます」と、蝶とまちの緑の関係について、調査で講師をしている東京都市大学環境学部准教授の横田樹広先生が解説してくれました。

子供たちも発見しながら成長！

プログラムは、参加者が大学の森や草地、周辺の公園で、蝶を見付けることから始まります。蝶を観察して、地図に蝶の種類と場所や飛んで行った先を記録します。そしてグループごとに大きな地図にまとめ、蝶の生息域と蝶道がわかる蝶マップを発表するという内容です。

「きれいな蝶をたくさん捕まえない」「よく山を歩いているけど、もっと昆虫のことが知りたい」「夏休みの宿題にしたい」などなど、さまざまな思いで参加した18組の親子たち。最初はなかなか蝶を捕まえることができなかった子供も、みんなでワイワイ楽しんでいるうちに、いろんな蝶を発見！「あ、シジミチョウだ！」などと、蝶の種類がわかるようになりました。



森の中で蝶の説明をする横田先生



大学生と一緒に観察



子供たちも興味深々の蝶の講義

Q よこはま森の楽校とは？

A 横浜みどりアップ計画では、森に関わる市民の裾野をひろげるため、親子で参加できる森に関わるイベントの充実に取り組んでいます。「よこはま森の楽校」は、横浜市と市内大学が連携し、大学の先生や学生が企画する自然体験学習を開催しています。



蝶を捕まえることに夢中だった子供たちが、だんだん、どの蝶が、どんな場所にいるのか気付くようになったのも、学習の成果です。

「生き物のつながりを、緑地だけでなく、まちも含めて考えることが大切です。これを機会に、森とまちの境目や、まちとの関係も考えられるようになって欲しいですね」と横田先生。



学生たちの地域への想い

こうした取組を平成14年度から続けてきたフェリス女学院大学の学生は、さまざまな想いを語ってくれました。「こうやって子供や地域の人たちと交流できるのが楽しいです」「子供たちに、どう伝えたら理解してもらえるかを考えるのは難しいけれど、私たち自身も勉強になります」「活動を続けることで、これまで環境に関心なかった子供たちにも、緑と生き物の関係を知って興味を持ってもらえたら嬉しいです」(エコキャンパス研究会:1年・松永悠里さん、3年・浅田真奈さん、丸山絵里さん)。

よこはま森の楽校を通して、子供たちだけでなく、多くの大学生にも、横浜の緑や生き物について考えてもらいたい……。若い人たちの関心の芽が育ってほしいな、と思います。

ここにみどり税

よこはま森の楽校(大学主催の環境学習)のイベントの費用、広報

よこはま森の楽校レポート

東京都市大学と東洋英和女学院大学で開催されたイベントを紹介します。

report1 自由研究応援企画!!～落ち葉のゆくえ～ /東京都市大学 吉崎研究室(都筑区)

土壌生物探し、落ち葉の観察などを通して、**森の循環を学びました。**(8月開催)

学生スタッフより

「参加した後で見える世界が変わると思います。落ち葉のゆくえを通して森の循環を知ってほしいです」



report2 森にやってくる生き物たち ～野鳥の生態と巣箱づくり～ /東京都市大学 北村研究室(都筑区)

キャンパスの森でのバードウォッチング、鳥の生態の解説や野鳥クイズ、巣箱作りをして、**鳥の生態を学びました。**(6月開催)

学生スタッフより

「鳥の研究をしています。地域の人にも、森にどんな鳥がいるか、知ってもらえたらいいなと思います」



report3 英和の森の自然遊び /東洋英和女学院大学(緑区)

幼稚園児から小学生までの幅広い年齢の子供向けに、自然観察や笹舟遊び、自然素材を使った工作、自分で摘んだ草花の試食などを通して、**自然の恵みと森の生き物に親しみました。**(6月開催)

参加者より

「子供1人ずつに学生が付いて、子供のペースで参加できてよかったです」「身近な自然を体験することができました」



イベント INFORMATION

第5回 よこはま森の楽校 ～元気もりもり! 横浜の森～

11/22(日)
入場料無料

日時:平成27年11月22日(日)
正午～午後5時

場所:クイーンズスクエア横浜1F
クイーンズサークル
(みなとみらい線「みなとみらい駅」)

入場料: 無料



自然素材を使ったクラフト教室や、ネイチャーゲーム、ワークショップ、トークショーなど、横浜の森に親しむことのできるイベントです。

●問合せ 環境創造局みどりアップ推進課

Tel:045-671-2624 Fax:045-224-6627

市内大学の学生が中心に実施している毎年好評のイベント。企画会議に集まった皆さんにお聞きしました。「いから自分たちで企画、準備するのは大変だけど、大学での勉強とは違った楽しさがあります。子供からおじいちゃん、おばあちゃんまで、いろんな方々と交流できるイベントは、自分の知らなかったことを教えてもらうこともあり、楽しみです」「横浜は都会?って聞かれるけど、私の周りには畑や森もたくさんあります。まちに自然があることの魅力や、森のあるまちだからこそ発見できる生き物のこと、いろいろ知って欲しいです」(東京都市大学吉崎研究室3年・後藤彰太さん、同大学北村研究室3年・柴田綾菜さん、笠井賢一さん)



イベントの企画会議に集まった学生のみなさん

遊びにきてね!

横浜花き展覧会

横浜産の花が勢ぞろい(最終日は即売会あり)。

展示：11月27日(金)午後3時～4時30分
11月28日(土)午前9時～午後4時30分
11月29日(日)午前9時～10時

販売：11月29日(日)午前10時～完売まで
(整理券は9時から配付)

会場：横浜市こども植物園 1階展示室(南区六ツ川3-122)

問合せ：環境創造局農業振興課
Tel:045-671-2639 Fax:045-664-4425

いきものを知る守るシリーズ～林の野鳥調査隊～

調査編、保護編の2日間の連続プログラム。

日時：①12月5日(土)②平成28年1月16日(土)、午前10時～午後3時
(①は雨天時12月12日、②は雨天決行)

対象：小学生とその保護者、抽選で40人

会場：横浜自然観察の森

申込：E-mailかFAXか往復はがき(11月21日必着)に、
イベント名／参加者全員の氏名／子の年齢／代表者の連絡先電話番号／FAXはFAX番号、往復はがきは返信先に住所／本誌で
知った旨を記入し、横浜自然観察の森へ

申込先：横浜自然観察の森
栄区上郷町1562-1 Tel:045-894-7474 Fax:045-894-8892
E-mail yokohama-nc@wbsj.org

青空市イベント

地元産農畜産物の販売や、野菜のプレゼント企画など。

※売切れ次第終了 ※①～④は天候により中止の場合あり

①～④の間合せ：

環境創造局農業振興課 Tel:045-671-2639 Fax:045-664-4425
⑤・⑥は各間合せ先へ

①北八朔日曜朝市直売会 感謝デー

12月6日(日)午前10時～正午
北八朔上自治会館前広場(東急バス青82系統「北八朔住宅」)

②東戸塚市民朝市 年末大売出

12月6日(日)・26日(土)午前7時～8時
セントラルフィットネスクラブ東戸塚第1駐車場(JR横須賀線「東戸塚駅」西口)

③横浜中部地区市民朝市 感謝デー

12月23日(水・祝)午前7時30分～8時30分
保土ヶ谷公園ミニ運動広場(市営バス25系統「明神台」)

④みなとみらい農家朝市 感謝祭

2月28日(日)午前9時～10時30分
高島中央公園(みなとみらい線「新高島駅」4番出口)

⑤都岡地区恵みの里 直売所祭り

12月5日(土)午前9時30分～11時30分(荒天時は翌日)
旭区下川井町の畑(バス「程ヶ谷カントリークラブ前」徒歩4分)
⑤の間合せ：都岡地区恵みの里運営協議会事務局
Tel:090-7733-8532 Fax:045-955-5057

⑥舞岡ふるさと村 直売所感謝祭

12月28日(月)・29日(火)、舞岡や午前7時30分～午後2時、
ハム工房まいおか：午前9時30分～午後4時、市営地下鉄「舞岡駅」
⑥の間合せ：舞岡や Tel:045-824-0075(午後2時まで)

こんにちは 横浜みどりアップ葉っぱーだよ

よろしくね～!

531点の応募作品の中から選ばれた、キャラクターです。
横浜みどりアップを知ってもらうため、活動しています。

プロフィール 横浜みどりアップ 葉っぱー
横浜の森で目覚めた、森の妖精の好きなことは日向ぼっこや手に持っている花で、緑をどんどん増やします。



●●●●● 柏町市民の森 OPEN! ●●●●●

平成27年9月1日に、柏町市民の森(旭区)が開園しました。
柏町市民の森は、市街地に残る貴重な緑を守るため、横浜みどり税を活用して、横浜みどりアップ計画で保全されたものです。

園内約1.9ヘクタールの緩やかな斜面の樹林地は、主にコナラやクヌギ、エゴノキなどの落葉広葉樹林と、スギ・ヒノキなどの針葉樹林で構成され、豊かな自然環境が保全されています。自然を気軽に楽しんでいただくため、憩いの場となる広場や散策路が設けられています。

アクセス：相鉄いずみ野線「南万騎が原」駅徒歩3分

問合せ：環境創造局北部公園緑地事務所 Tel:045-311-2016 Fax:045-316-8420



巡回などの日常管理は、市民の森愛護会の皆さんが行っています。

横浜みどりアップ計画とは?

緑豊かな環境を将来に残すために、市民の皆さんと一緒に緑を守り、つくり、育てていく計画。財源の一部として、「横浜みどり税」を活用しています。(個人市民税均等割に年間900円、法人市民税に均等割の9%相当額を上乗せ)計画書は、環境創造局ホームページ、区役所広報相談係や市庁舎1階市民情報センター、環境創造局政策課で閲覧できます。

http://www.city.yokohama.lg.jp/kankyo/midoriup/



横浜みどりアップ計画 市民推進会議とは?

横浜みどりアップ計画について評価、提案、市民への情報提供をする、市民参加の組織です。

市民推進会議



みどりアップQとは?

みどりアップQの「Q」は「みどりアップをもっと知る、なぜなら?(クエスチョン)」と、「緑のある暮らしの質(クオリティー)を考える」。市民目線でみどりアップ計画を探っていく市民推進会議のレポートです。

みどりアップQ 第5号

(市民推進会議広報誌 第25号)平成27年11月発行
編集：横浜みどりアップ計画市民推進会議 広報・見える化部会
発行：横浜みどりアップ計画市民推進会議事務局

問合せ

横浜市環境創造局政策課(事務局) 〒231-0017 横浜市中区港町1-1
Tel: 045-636-4214 Fax: 045-641-3490
E-mail: ks-mimiplan@city.yokohama.jp



「みどりアップQ6号」
「子ども版広報誌」に差替え